第２回円空大賞

加藤昭男（かとうあきお）

プロフィール
1927 年：愛知県、瀬戸市に生まれる
1952 年：「新制作協会展」初入選（以後毎年出品）
1953 年：東京芸術大学彫刻科卒業
1955 年：「第 20 回新制作協会展」新作家賞受賞
1960 年：「第 3 回国際具象派美術展」（銀座、松坂屋）
1965 年：「日比谷野外彫刻展」（東京）
1966 年：「第 7 回現代日本美術展」（東京都美術館）
1970 年：「第 5 回昭和会展」優秀賞受賞
1974 年：第 2 回長野市野外彫刻賞受賞「第 2 回高村光太郎大賞展」優秀賞受賞
1980 年：「現代彫刻の歩み展―41 人の作家による戦後彫刻の足跡」（神奈川県民ホール&ギャラリー）
　　『明日の太陽』レリーフを茅ヶ崎市松下政経塾正門に制作設置
1983 年：「北川民次とその仲間展」（名古屋日動画廊）
1989 年：『とのさまバッタ』碧南市に制作設置
1990 年：『鳩を放つ』新瀬戸駅前広場に制作設置（愛知県）
1991 年：『南の空へ』東京都立大井埠頭公園に制作設置
1994 年：第 2 回中原悌二郎賞受賞
1996 年：「現代日本の陶彫作家展」（彫刻の森美術館）
　　『緑の風』舞鶴市に制作設置
1997 年：「加藤昭男彫刻展」（現代彫刻センター）
　　「加藤昭男彫刻展」（武蔵野美術大学資料図書館）
1999 年：「加藤昭男個展」（新宿パークタワー）
　　『仔犬と天使』横浜市立脳血管医療センターに制作設置
2000 年：第 5 回倉吉・緑の彫刻賞受賞
2001 年：「加藤昭男個展」（旭川市彫刻美術館）
　　『小川に魚が帰った日』北海道療育園に制作設置（旭川市）

「明日太陽が昇るか」制作中
2002 年 4 月 19 日撮影

受賞理由
　円空大賞に選ばれた加藤昭男氏は、長年日本の彫刻界の第一線で活躍しているが、特に近年の作品には目を見張るものがある。氏は隣県の愛知県の出身であるので、代々すばらしい芸術作品を生み出してきた尾張や美濃の土の霊がこのような作品になって現れたのではないかと思われる。
　土の中から、あるいは人間が、あるいは動物が、あるいは鳥が現れてくる。そして現れてくるもののなかには天使も、妖怪も、風すらいる。
　この現れはまだ完成していず、いたるところに土の塊が荒々しくくっついていて、誕生の激しさを示す。そして人や動物はすべて何かを絶叫しているようにみえる。しかも荒々しい力強い作品のなかに細かい神経が働いていて、一本の手、一本の足、一枚の羽も決して疎かにしていない。巨大な加藤芸術の開花さえ感じさせる。

「小川に魚が帰った日」

「とのさまバッタ」

「月から舞い降りた兎」

「こん狐」